

平成27年度第2回 田沢湖地域審議会議事要旨

日 時 平成27年12月24日(木) 14時00分～16時10分
場 所 田沢湖総合開発センター 1階 大集会室
出席委員 中村正孝会長、三浦久副会長、藤川栄委員、高橋正男委員、田口知明委員、
中田晶子委員、千葉智永委員、堀内新平委員、小松尚委員、柴田英孝委員
10名

欠席委員 荒木田憲治委員、鬼川芳典委員、浦山力委員 3名

仙北市関係者

副市長 倉橋典夫
田沢湖地域センター所長 草薨正敏

事務局

総務部次長兼企画政策課長 平岡有介
定住対策推進室室長補佐 阿部聡
定住対策推進室主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 案件
 - 1) 総合計画基本構想(案)について
 5. 閉会

内 容

■会長あいさつ

今年も残すところ1週間ほどになりました。近年に無いような暖かく、雪のない12月を迎えております。喜んでいる人もおりますが、困惑している方もいらっしゃいます。特に雪のある冬をベースとしたいろんな営みが行われている本市ですので、降雪がないということはいろんな方面に影響を与えていることがあります。

本日は審議会を開催するというご案内をいたしました。年末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。この後審議を進めていきたいと思っておりますので、貴重なご意見をたくさん出していただければと思います。よろしく願い致します。

■副市長あいさつ

年末のお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。2回目の田沢湖地域

審議会ですけれども、今日は今後10年のまちづくりの指針となる総合計画基本構想について、皆様からご意見を伺いたいと思います。1回目の審議会では様々なご意見をいただき、それを基に基本構想（案）をまとめております。既に角館、西木の地域審議会は2回目の開催が終わっておりまして、その会でもいろんなご意見が出されています。今日の田沢湖地域審議会の内容をさらに基本構想に取り込みまして、1月中に最終的な合同審議会を開催し、その後、市民の皆さんのご意見も伺い、基本構想、基本計画をまとめていきたいと思っております。

また、今日資料として配付しておりますが、仙北市の総合戦略（案）は人口減少に伴う国の地方創生の施策の一環です。全国の自治体で策定が求められているものです。仙北市におきましても、策定委員会を設けまして案をまとめ、パブリックコメントということでご意見をいただいております。これは5ヶ年の計画ですが、人口減少に如何に施策を展開して抑制するかというものです。人口ビジョンということで、人口推計にあわせた仙北市の将来の目標人口を設定しております。かなりハードルは高いのですが、重点的にこれから5年間、施策を展開しなければならないと思っております。人口減少対策は子育て、出産、結婚から若者の雇用の場創出、居住環境の整備など、多岐にわたる施策が必要になっています。総合戦略に示された今回の基本構想の整合性もとっていかなくてはなりません。皆様からのご意見を伺い、早急にとりまとめをして次の10年に備えたいと思っております。どうかよろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

■案件

1) 総合計画基本構想（案）について

資料1・2に基づき説明。

中村会長

何か質問やご意見等ありましたらお願いします。

藤川委員

最初の審議会には出席できませんでしたが、抜本的に消費が落ちたり、人口が減るといのは自然現象もあることですが、実際若者が定着しないといのは、なぜなのかということ掘り下げて考えてみたことがありますか。なぜ今そういったことを聞くかということ、おぼこでは農家の所得倍増計画をもって動いています。やはりそこで生活するには、ある程度所得がなければどんな環境でも若者にとっては住みにくい世の中という感じがあります。所得に関する考えが甘いのではないかと思います。私が思うのは、お金がなければ生活できないということです。そこら辺はどのようにして方向付けをしていくのかなど。市の方向がみえません。

中村会長

若者が定住しない理由はということから、所得アップに関わるご質問でした。

倉橋副市長

やはり仕事がなければ所得につながりません。雇用の場を確保をする

ということが一番大事なのかなと思っています。これまでも企業に対する優遇策を実施してきていますが、根本的なところから次の10年はやっていかなければならないと思っています。例えば企業誘致だけでなく、農業の分野でもこれからは個人経営は成り立っていかないのかなど。自分の農地を自分で経営して、きちっとした所得をあげていくというのはかなり困難になってきていると思います。林業ももちろんそうです。そこも1つの会社というイメージを持たないと雇用の促進にもならないし、所得の確保にならないのかなと思っています。もちろん既存の工場なり会社に対する支援も必要ですし、農林業や観光を含めた全体を見回して対策を講じていなければならぬのではないかなと思っています。もちろん若い人達の仕事ばかりでない部分の支援もやっていきますが、少しでもここで働いて暮らしていける環境を整備しなければならないと思います。

藤川委員

副市長の発言はその通りだと思います。具体的に言えば細かくなってしまうので追求しませんが、やはり、法人化というのは必要かもしれないかもしれません。ましてや米価が非常に落ち着いているということは、農家の購買力が下がっています。お店の売上も落ちていきます。悪い循環が進んでいっていると思います。そこに市が油を注いでくれないとうまくないと思います。それから学校教育について、今食生活が非常に乱れています。おばこではアグリスクールだったり、様々なことでお母さん達に地域食材を活かした料理教室などを開催しています。基本的な食に関しても市で力入れてもらいたいと思います。

高橋委員

総括という中で要約するとこの通りだと思います。前計画では北東北の観光拠点都市を目指してということで、非常に観光面でやっていくという大きな計画でした。ここについて物足りないなど。現在、田沢湖の観光部門については減少傾向にあります。当時、宿泊客だけでも70万人いましたが、現在は50万人を切っています。田沢湖高原、田沢湖等については、非常に元気がありません。観光事業については、観光そのものではなくて、分野が広いので、いろんな分野に関連があります。それが1つの産業連携になり、発展していくことだと思います。総括という面に入れていただければと思います。最後の観光の記述ですが、23ページから。やはり観光産業というのは農林業と同じくらい大きな要素をしめておりますので、これについては強調して、もう少し施策について展開していく必要があると思いました。それから人口ビジョンということで最終的には推計はこうなると出されていますが、この計画の10年間でこうしたい、こうなりたいという願望は記述する必要はないのでしょうか。その点についてお願いし

	ます。
中村会長	高橋委員と関連することもあると思いますが、私からもお伺いしたいことがあります。2ページに本計画は基本構想、基本計画、実施計画と3つ並べていますが、この3つの点についてこれに網羅されているということでしょうか。
事務局 阿部	これは基本構想部分になります。
中村会長	そうすると、基本計画や実施計画はこの後でてくるということで理解できますが、1月にまとめるということでしょうか。その時に基本計画や実施計画が我々に提示されるということでしょうか。
事務局 阿部	基本計画まで調整した案のものを審議会の皆様にご提案し、ご審議していただきたいと思っています。
中村会長	これをみて基本構想は掲載されていると。その後については、無いところもあれば、いくらか反映されているところもあると。その全体をみて私達は検討していくのかなと思っていました。そうでなく、段階を追ってやっていくということでしょうか。
事務局 阿部	そうです。
中村会長	まずここに持っていきたいという高橋委員の考えにもあったと思いますが、そういうところが見えない状態で計画を練っていくという形になってまいりませんか。
事務局 阿部	10年間のまちづくり都市像、基本理念等についてですが、1ページ目をご確認ください。前回は提案ということでお話させていただいた部分で、第2次の総合計画の中では、まちづくりの基本理念を健やかに美しく輝くまち、目指す都市像については、小さな国際文化都市を目指して、市民がつくる誇りあるまちの実現に向かって、この10年間進めていくという考えです。皆様から提案あった部分ということで、その部分を説明させていただきましたので、全編は説明しませんでした。この基本構想の中ではこの10年間の理念を考えて調整しているところです。
中村会長	10年分がこれに盛られているということですね。
倉橋副市長	基本構想は基本的な方針を示して、具体的な事業は基本計画で取り上

げていきます。

藤川委員

理念があつて、基本構想があつて、計画があつて、実施計画があるということでしょうか。

倉橋副市長

実施計画になれば具体的な予算事業になりますので、それは後になります。次回の合同審議会の前には基本計画をお渡しして、最後の議論をしたいと思っています。

中村会長

私も全体を詳しく見たわけではありませんが、読んでいったところで誤字というか、別の言葉を使ったほうが良いところや、明らかに公園と講演と間違っているところがありました。そういったところも含めて、何か資料説明があるのかなと思っていました。それ以外のことについて、進めていけということであれば、どこに持っていったらいいのかなという気持ちです。読んでいき、この会で話されたことがいろんな箇所に盛り込まれていると思いますが、非常に弱い部分やこれだけで良いのかなという部分があったと思います。そこら辺のところには補足説明等があるのかなと思っていました。

倉橋副市長

高橋委員の意見に答えさせていただければと思います。高橋委員から観光面についてお話がありました。仙北市になって角館、西木も含めて観光資源に恵まれている地域ということで、仙北市はスタートしたと思っています。ただ、一体的な取り組みが出来なかったということがあったと思います。そうしたことも含めて、観光連盟が発足し、今年度から法人として観光連盟がスタートしました。本当に一体的な取り組みは次の10年から始まると思っています。いずれ観光連盟を主体とした観光振興にシフトしていかなければならないと思っています。今、各観光協会の予算をそれぞれにつけていましたが、今は観光連盟1本に予算をおき、観光連盟の中で、それぞれの地域に必要な額を配分するという方針に改めています。それから市と観光連盟の役割を見直していく必要があると思っています。震災以降はお客さんがかなり減りましたが、かなり持ち直ししてきていると伺っています。ただ、北陸新幹線や函館新幹線の開業などの要素がある訳ですが、また、日本全体の人口が急激に減っていることで、国内のお客さんというのは限られてきていると。これを増やすのはなかなか難しいということで、海外に目を向けていく必要があります。今回の議会にもお願いしましたが、海外のお客さん向けの取り組みを強化していくとしています。これは総合戦略にも入っていますし、総合計画の中にも国内はもちろんですが国外に目を向けた観光戦略をこれからやっていかなければならないと思っています。これは市だけではできませんので、観光に関

係する皆さんと進めていかなければならないと思っています。その基盤整備づくりはかなり進んでいっていると思いますので、それを実行に移す段階にきていると思います。

2番目の人口推計については事務局から説明します。

事務局 阿部

この中で本市の人口推移2ページをお開きください。人口の動向ということで、国勢調査のあった年の数値を基にして、推計をつくっております。昭和55年の時点では39,098人の人口が、このままの人口推移が続けば、2040年には16,743人まで減ってしまうという推計が出されています。仙北市ばかりではなく、全国どこの自治体でもこの人口減少はおきています。これをそれぞれの人口、年少人口や生産年齢人口、老年人口に区分けをしたものが3ページです。今のなかでは老年人口が若干の増加傾向がありますが、それも年月がたつにつれ、老年人口も減り、全体の人口減少が加速化されるという推計です。この人口減少を抑制していかないと、地域としての活力を維持し、まちづくりをしていくのは困難になってくるため、仕事づくりや若者定着、子育て支援、地域にあったまちづくりを進めていかなければならないというのが総合戦略の考え方です。この人口の減り方を緩やかにするために様々な施策をうっていけば、この人口減少が抑制されていくという考え方をもって事業を進めていかなければならないと考えています。これをどれぐらいの人口減少を抑制していくのかというのが、33ページをご覧いただきたいと思います。人口の長期的見通し、目指すべき将来人口ということで、社会問題人口研究所の推計が国で出している推計で、平成72年には10,432人まで減りますという数値になっております。ここの部分を様々な施策をすることで合計特殊出生率を上げ、市外に転出する数が多いのですが、その数字を抑えるために各種制度等を実施し、市外転出数の減少を図ります。そういったことにより、15,841人(2060年)を維持できるように努力していくということを掲げたものです。当然、総合計画の基本構想の中で、6～7ページに人口状況を記載しております。ここには記載しておりませんが、目指すべき将来人口の数値を入れて、まちづくりを進めていきますという調整をしたいと思います。

三浦副会長

人口が減るとするのは絶対くい止められないと思いますが、同じ減るにしても仙北市全体で減っていくのと、例えば生保内、田沢、各地域ごとに減る確率は全然違うと思います。この提案にもありますが、庁舎1つを角館に建ったとしたら、生保内がもぬけの殻になると思います。合併した時にどれだけ影響しているのか、飲み屋でも人ともぶつからないという状況があります。市当局としては、地域全体が発展していくような、あるいは人口減少が均等に減っていくような施策をと

ってもらいたいと、みんな思うところだと思います。誰のための合併だったのかと。10年もたって。合併当初から比べれば、地域がさびれてしまっています。3.11の震災から我々も復興税を払ってきましたが、向こうに行けば日本全国の重機が集まっているのではないかと思います。日本のお金が全てあそこにかけているとも感じました。あっという間に高速道路がつながり、アクセスがとても良くなりました。あれだと、もう10年たてばこちらに来る人がいなくなります。誘致企業も、雪もなく道路が良いところに行くと思います。それに負けないような均等的な日本海側も発展するような働きかけも必要だと思います。今の状況だと、復興税を出したとしてもその恩恵は受けずにマイナスになっていると思います。そこら辺について、政治的に働きかけてどうにかならないのかなと思います。

倉橋副市長

地区ごとの人口というのは国勢調査で出てきますので、今回の数値が公表された場合は分析しなければならないと思っています。ただ言えることは、どこも等しく減っているということです。

三浦副会長

例えば角館の町を歩いていけば人とぶつかっても、生保内の駅前を歩いたとしても人と会わないこともあります。

倉橋副市長

角館町は観光客が町中を歩くという場所なので、そういう様に見えると思います。実際は空き家が増えています。

三浦副会長

特に庁舎1つでものすごい影響を受けることなので、市民全体のことを考えて、将来像を目指してもらいたいと思います。

倉橋副市長

当然各地域の振興策については市として取り組まなければならないと思いますので、そこは十分配慮したいと思います。
太平洋側、日本海側についてですが、あれだけの災害にあったので、今国の予算は防災面についてはそれなりに確保されます。それ以外の一般公共事業についてはかなり厳しいと言われていています。105号の方は県の所管でそれなりの整備方針が固まっていますが、46号のほうが遅いです。ようやく盛岡、雫石を含めたもので動きだしています。橋りょうであったりトンネルの老朽化も進んでいますし、何よりバイパスが無い、神代から雫石の間は単線という状況です。今で高規格でないため、それは力を入れていきたいと思っています。

三浦副会長

そうですね。震災の時は、こちらは人的災害はうけませんでした、向こうの方々は大変だったと思います。ただ、本当に政治だと思います。各自治体と連携した取り組みをして、協力に推し進めてほしいと

思います。秋田県だけじゃないですかね。高速道路がつながっていないところ。新幹線も湯沢にくると思ったら日本海側にいってしまいました。

柴田委員

1ページの総括についてです。会長もお話しましたが、今まであったものを改正していると。これからどういった方向になり、人口問題、高齢者など、今後の地域計画に向けて作成していくという意味合いが必要だと思います。まして三浦副会長がお話したように、人口が減る、庁舎建設の話もでました。将来的には人口が半分になる時期に、あのような大きい建物がある地域に建てると。実に理解ができません。基本構想の中にはある程度のブレーキの表現も必要だと思います。もう1つ。基本構想、基本計画、実施計画もいずれ公表すると思いますが、段取りはどうなっていますか。

事務局 阿部

パブリックコメントを市民の皆様からご意見をいただき、総合計画に反映し、公表していきたいと考えています。

田口委員

前回欠席してしまい申し訳ありませんでした。商工業者としてお話しさせていただきたいのですが、23ページの産業振興についてです。ここに書かれているのは農林業と新規創業です。既存の中小企業についてほとんど触れられていません。ここについて市として産業振興条例も制定して、人口減少に歯止めをかけるためには雇用を創出して、お金を生み出すということだったので、特に地場産業の中でも観光業、既存の中小企業の取り組みは非常に重要になってくると思います。もっと言えば、この農林水産業は農林水産業として、観光業、商工業として取り扱いをした方がよいのではないのでしょうか。

平岡次長

先ほど高橋委員からも観光面が薄いということもありましたので、柱のあり方、項目について検討させていただきたいと思います。いかに重きを置いた表現ができるのかということを検討させていただきます。骨格を移せるかということは難しいと思いますが、今までご審議いただいたものを活かしながらプラスできるような方向で検討します。

田口委員

基本的に仙北市が直面する課題をどうやって克服していくかというところですね。

平岡次長

産業振興の基本目標は6として、中に小さい章をもうけるなどの方法はあると思います。

中村会長

この冊子が私達の意見を勘案してまとめられてきたと思いますが、その責任は私達にもあります。項立てのところはもう少しはっきりしたら、もっとすっきりしたものになると思います。例えば、3ページに出てきたと、それに関連したものが5ページに出てきたと。どちらも薄くなってしまって元も子もありません。ただ、文字に並べただけなので、まとめられるものはまとめて、きちっとした項立てをしてもらえれば良いと思います。

それと、人口減少を抑制するとありましたが、このようにすれば抑制されるだろうというのは皆さんわかります。具体的にどのようなことが出来るのかということに持っていかなければいけないと思います。本当に現状でどうすれば出来るのかということを考えていかなければいけません。極端なことを言えば、外から人を呼んでくることも1つですが、ここから人を逃がさないということも大きな施策だと思います。そのためにどうするのかと。そこに具体的な施策がでてくると思います。そういった進め方をしていかなければならないと思いました。

柴田委員

11ページのまちづくりの目標について。今回特区の関係だと思えますが、①に新たに創る夢のまちとあります。基本的には住民が主体となって将来の新市を作っていくということが大前提になっていると思えますが、新たに創る夢のまちというのが一番に出てきているのは理解できません。それよりもっともっと大事なものは、定住などの方だと思います。順番が先だからということではないと思えますが、もし出来ればそういったことも勘案しながら策定してもらいたいと思えます。

例えば、国有林を使った豚の放牧を実施するようですが、そう簡単なことではないと思えます。慎重にかからないと大変なことになると思えます。

それと外国医師についても記載されていますが、外国医師を頼んでくるということは地元の医師の関係もあると思えます。そういった関係のなかで無理がないのか。すり合わせも必要と思えます。かなり具体的に書いていますので、もう少し具体的じゃなくても良いのではないかと思います。

倉橋副市長

特区に関しては市が事業主体ではなく、少なくとも地域にマイナスになるようなことにはなってはならないと思っています。豚の関係も今聞いた内容を事業者には十分伝えてあります。外国医師はハードルがかなり高いです。かなり限定的なものになると思えます。地域医療とは違った形になると思えます。

藤川委員

柴田委員からも豚の放牧についてお話がありました。個人的には反対

です。なぜかという、糞尿の処理をどうするのかと。上水道が完備されていないところは、地下水に流れていくのではないかという不安もあります。今の和牛の肥育牧場もありますが、あそこも雨が降ったりすると若干流れているところもあると思います。

もう1つ。農地の固定資産税についてです。いずれ税庁ではやる気のない農地については、1.8倍の固定資産税をとるという話もできています。そうなるかはわかりませんが、いずれ遊休農地は中山間地に多いので、そのバンクを作るとありますが、借り手の無い農地を集めてもどうするのかと。農地管理機構もです。そこら辺も慎重にやらないといけないと思います。

三浦副会長

農地を原野に戻すのは難しいです。それでなんとか家のそばだけでも藪からにしたいという気持ちで、高齢者が頑張っています。むしろ特区で農地を原野に戻せるというようにできないでしょうか。税金どうのこうのという話もありますので。

中田委員

上下水道に関してです。神代地区は整備が非常に遅れています。上水道に関しては掘削により水源を確保しようとしています。それではなかなか実現が難しいと思われれます。先ほどのように浸透していった水が汚染されるということもありますので、奥羽山系の水源を確保していただけないかなと思います。

倉橋副市長

神代の水道については、今森腰までできました。それは西明寺からもってきています。今度道路の左側（田沢湖から向かって）の計画に入りますが、一部は角館の浄水場からという案があります。いずれにしても神代地域全域をカバーできるように進めたいと思っています。1年2年ではできませんが、計画には取り組んでいきます。まず仙北市内で上水道が行き届かないという状況を解消するというところで計画しています。

遊休農地の問題は、農地として活用できなければ無理ですが、ただ、私の地元でですが、県事業で耕作放棄地の畑地化事業を実施しています。2町歩です。法人が野菜づくりをしています。仙北市のモデルケースになれば良いと思っています。その事業は自己負担がありません。国と県と市で負担しています。

三浦副会長

畑地化した農地は誰が耕作するのですか。

倉橋副市長

農業生産法人で一括して作ります。所有者は貸すだけです。メガ団地まではいきません。

三浦副会長	利用しなければ林になってしまうところですので、良いことだと思います。
千葉委員	私は逆に借りたい方です。現状を見れば使えません。自分で手をかけなければ使えない場合が多いです。それで、すぐに使えるような整備をある程度の補助金等を出していただければ、利用できると思います。
三浦副会長	いつも思いますが、ロケーションは良いんです。それを売りにして誰も作る人がいないから、法人を作って、農地を活用してくれればとてもありがたいです。中山間地になって、補助金をもらっているのだから草刈りをしてやれています。しかし、今やっている人達が次は更新できないと思っています。いい使い道を探ってもらいたいと思います。
倉橋副市長	今年ですが、刺巻に移住してきた方は今度県の農業研修に参加します。30代です。刺巻の方もバックアップしてくれています。
小松委員	総合計画の段階ですので、いろんな意見も反映して良いものを作ってもらえればと思います。根本的なことで、ちょっと戻りますが、資料の見方です。資料1で発言者と会議中とあります。会議中はどういった場に出てきたものですか。空欄というのは何でしょうか。
事務局 柏谷	空欄があるのは西木だと思います。西木はこういった審議会とは別に、自分たちで集まって、門協会長が提案書を出したという経緯があります。そういったところは空欄になっています。あと個人名になっているのは、個人で提案書を出していただいたものです。
小松委員	西木が頑張られているということですね。
倉橋副市長	意見は田沢湖が一番多かったです。
柴田委員	今さら変なことをお話すると思われると思いますが、人口問題は大問題になっていますが、持論は人口は減ってもいいと思います。あえて増やす施策や連れてくるという施策でなく、自然になりゆきに合わせるといいうことも1つの考えとしてあると思います。いろんな施策をするためにお金がかかります。そのために公共施設を維持していかなければならないということもあると思います。人を増やす、減らしていけないということにこだわらなくても良いのではないかと個人的には思っていました。
田口委員	その延長線上は仙北市の消滅しかないと思います。

- 柴田委員 そうだと思います。
- 田口委員 仙北市は消滅しても良いということですか。
- 柴田委員 良いと思います。全体的に人が少なくなるということは、昔の生活に戻っていくなど、そういったことになっていくのではないのでしょうか。
- 田口委員 それは我々世代からすれば、柴田さん世代の人達はここで生きていて、そのバトンが渡ってこないということです。私達はここで生活して人生全うしたから、あとは各々でやっていけという話しに聞こえます。
- 柴田委員 そうではありません。残る人達は知恵を出し合っていくことだとは思っています。真剣になって人を増やすということは能力的にも大変だし、財源的にも大変だと思います。
- 田口委員 諦めてしまえばおしまいだと思います。
- 柴田委員 諦めるということではなくて、そういう方向性という考えも頭にいれておかなければいけないのかなど。
- 田口委員 人口減少はしょうがないということにしたとして、何をやるんですか。そうなれば病院や生活インフラは成り立たなくなりますよね。そうなればどうするんですか。町部によっていくんですか。それはやむを得ないと。
- 柴田委員 そうです。例えば田沢湖病院も維持されていますが、極端な話し、老人も少なくなり、子どもも少なくなると。当然維持管理は大変だと思います。そこら辺も含めれば診療所にするとか、町医者を大切にするとか。そういった方向にいったほうが良いのではないかと。私の持論です。
- 中村会長 人口減少もいろんな要素が絡んで減っている部分もあります。そこを止めましょうという取り組みもあります。例えば働く場所がここにたくさんあれば、外に人が出て行かなくても良いです。
- 柴田委員 誘致企業をやっていても、とんでもない時代になっています。中生保内もそうです。あのような事案を見ていけば、現実的にどうなっていくのかと思います。

中村会長

片一方だけでなく、双方向から攻めながらいかなければ上手くないと
思います。

事務局 阿部

そのための総合計画ですので、今の人口減少社会を抑えられない部分
を受け止めながら、如何にして10年と言わず、将来の部分のまちづ
くりをどうやって進めていくのかという部分を描いていくことによっ
て、一時的には市外に転出する人もいると思いますが、また戻ってく
るとい方がいると思います。

柴田委員

わかります。ですが実質的にある年代から企業がきません。働く場所
がないです。それをまた同じことを繰り返すことになります。方向転
換や頭の発想を変えていかなければ出来ないと思います。

堀内委員

市民の皆さんからのアンケート結果は、夢叶えるということではあり
ませんが進めていただきたいと思います。個人的意見ですが、移住者、
会社で本市に移住、進出してくれるところで、大きいところはそんな
ことないと思いますが、移住者の方はフットワークが軽いです。フッ
トワークが軽いので移住して来られます。金銭的な余裕もあって、時
間もあると思います。我々、少なくとも若者的にここにいる人間はこ
この町が好きで死ぬまでここに居るとい気持ちで暮らしています。移
住者の方は田沢湖は雪が多くて、沖縄に移住すれば楽だなという方も
います。こちらに入ってきた企業も、何らかの勝算があって入ってき
ますが、5～6年やっとうまくいかなければやめるパターンもありま
す。昔からあって歴史ある地場産業は、厳しいながらこなしてくれる
会社への協力は必要と思います。時代の流れにのるといことは、当
然、設備投資が必要です。そこを捻出できるところと出来ないところ
はあると思います。そういったところで商売がうまくいけば、雇用が
たくさんできたり、働いていただく方々へ賃金を多く払えるというこ
ともあると思います。例えば農業でおいしいものを作ってもらい地場
で消費すると。最近聞かなくなりましたが、地元の業者は地元内で新
年会や忘年会をすとか、野菜をすとか。以外に秋田の人は、こっ
ちは何もないという人が多いです。じゃなくて、何も無いとは言わな
いで「仙北市に来てよ」という取り組みがほしいと思います。胸張っ
てこの町にいて良いところだよと言ってもらえるようになれば、結果
オーライだと思います。そうすると人口減少の世の中の流的に、仙
北市だけはなんとかオープンでいっているということでも良いと思
います。とにかく市民の声と、私達の声、住みやすいところになれば良
いと思います。

三浦副会長	行政コストは新しい道路を作れば古い道路を廃止する訳にもいかないし、どんどん経費が必要になってきますね。
柴田委員	手をかけられない道路もでてくると思います。
三浦副会長	例えば田沢の人は教育熱心なところですが、結局もぬけの殻になりかねないと思います。教育ももちろん力を入れたいけれども、秋田県が全国1位になれば、若者がどんどん転出することにつながっているのかなど。教養大学の方で秋田に就職する人が1人もいなかったという場合もあります。100%といっても秋田県に残らないこともあります。実際思うのは、例えばここに住み続けるとしていますが、田沢、潟の方々は集合住宅で中心に集まってくるのも1つの方法なのかと思います。
柴田委員	西木の方で冬期間に清流苑に転居するケースもあると聞きました。いずれ、そういうことにならざるを得ないのではないかなど。空き校舎をそういったことに利活用するとなれば、とても良いと思います。
三浦副会長	市川先生が住民のことをよく分かっています。訪問診療によりきちっとなっています。ありがたい先生だと思います。
藤川委員	31ページの新庁舎についてです。確かに1箇所に集められれば良いことは良いと思いますが、どれくらいの職員が削減できて、どれくらいのサービスが増えるのでしょうか。それから、長寿命化というのは矛盾しているのではないのでしょうか。これは議会が決めることだと思いますが、市民の意見として個人的な意見としては、角館病院跡地については反対です。果たして統合して良くなるのか、良くならないのか。財政としてもなぜこの計画にのせなければならぬのか、疑問です。
柴田委員	合併時に新庁舎を作るということは、今まで職員が動いて各地域のサービスを実施してきたが、それが大変なので住民が動きなさいという流れに見えます。それは逆だと思います。何がサービスなのか考えると疑問に思います。
倉橋副市長	今庁舎のお話が出ましたが、そもそも合併協議時からの議論で、この10年間で統合庁舎の場所を決めましょうということで合併した経緯があります。それにより基本構想案を出しました。今は議会で議論しています。おそらく1月中には議会の結論が出されると思います。こ

れによりこの表現は変わることが想定されます。

藤川委員からの公共施設の長寿命化ですが、全国同じで、昭和50年60年代に一気に公共施設が建てられました。その建物が耐用年数を迎えています。公共施設の管理計画を今策定して、継続して使用するのか、やめるのか、解体するのか、補強して使用するのかという、施設ごとの区分を明確していきます。その中の一つが長寿命化と理解していただきたいと思います。

三浦副会長

ちなみに田沢湖庁舎はいつまで使えますか。

平岡次長

耐震すれば何十年単位で使えることにはなります。当然設備の改修も大規模になると思いますが、一定の期間は使用できると思います。仮に総合支所になるにしても、長期間の使用に耐えるような改修はしていきたいと基本構想では示しています。

三浦副会長

新庁舎ができれば田沢湖庁舎は不要という考えにはなりませんか。

倉橋副市長

そういった考えも出てくる可能性もあります。

三浦副会長

建物があれば経費がかかります。例えば平屋の支所があればいいのではないのでしょうか。

柴田委員

新しく建てる必要はないと思います。ここに庁舎をおけば一番良いです。

藤川委員

なぜ庁舎のことを話したかという、新幹線を田沢湖、角館について全て停めて欲しいと要望がありました。もし角館に本庁舎がうつれば、田沢湖駅には停まらないのではないのでしょうか。

倉橋副市長

それはないと思います。今エスカレーターの工事をやっていますが、あれば JR が独自でやっています。きわめて珍しい例です。それだけ田沢湖駅には必要という判断です。庁舎によって新幹線に乗る人が増えるということはまず考えられません。そもそも庁舎に住民の方はきません。

柴田委員

だから統合庁舎はいりません。

三浦副会長

不便です。観光課といえば角館。農林関係は西木です。

柴田委員

私は田沢湖庁舎に行けば用事が足ります。

高橋委員	総合計画で基本構想、基本計画、実施計画ということですが、総合戦略も非常に細かいことが書いています。この10年で重点的に行うものについて絞り込み等はしているのでしょうか。
事務局 阿部	基本計画の中で今後10年間に取り組む事業は掲載されます。これから力を入れていなかえればならないのは、仕事づくり、子育て、出産、地域づくりは今まで以上に制度設計等も含めて行っていかなければならないと思っています。
高橋委員	概要版にでてくるかもしれませんが、網羅された事業があれば非常にありがたいです。
倉橋副市長	いずれ概要版は作って、各世帯に配付したいとは考えています。
三浦副会長	前にもお話しましたが、人口が半分になるということを市民が認識する必要があると思います。今のサービスを維持できると思っていられても大変だと思います。自分たちの地域は自分たちで守っていくという気持ちが必要だと思います。
事務局 阿部	人口減少社会ということですので、行政ばかりではまちづくりが厳しい部分もでてくると思いますので、一緒にまちづくりに参画して作り込みをしていきたいという姿勢を明確にしてお示ししていきたいと思っています。
中村会長	町が大きくなるほど、あちこちで縮小していけばリスクが大きくなります。幕藩体制のときは小さい藩なりにやってきました。なんでもかんでも大きくなるのは考えなければいけないと思います。散らしていくという考えも必要だと思います。何も無いところに建物をたてて、そこを活性化させるということも1つの戦略だと思います。例えば団地が1つできれば、人が集まります。東京では団地ができれば学校ができます。それが逆になってきています。それでは予定した16時になりましたが、何かありますか。
小松委員	堀内さんからもありましたが、移住者はフットワークが軽いので影響力がある時はいいですが、出て行くときは出て行ってしまいます。平等にいろんなことに目をかけてもらうということは大切と思いますが、他から比べてマイナスもあります。他に無い良い部分があってくれてくると思いますので、そういった方に目を向けていただけるような仕組みだったりが必要だと思います。インバウンドの話はよくで

ますが、海外から来たお客さんの目線が必要という形になっています。国際教養大学の学生にいろんなところに行ってもらって、レポートにまとめて、見てもらった内容で発信するというのが大事だと思います。それは移住してきた人に、自分たちが気づかない良いところを見つけてもらい、それを良いところなんだということを導き出していくことが必要だと思います。地域のトータルブランドを作っていくというのも、そういった方々の力を借りれば良いと思います。市長が頑張っ
て旗をふって PR するだけでなく、地域の方々が PR して、地元企業もサポートしてもらおうということも必要だと思います。雇用の確保についても、大きいものをもってきて、上手くいかなかったから箱物残して帰られても困ると思います。良い事例は全国や県内にもあるので、挑戦できるタイミングでは挑戦していきたいと思っていますので、サポートしていただいたり、そういった活動を知ってもらい市が旗ふってもらい、一緒にやりたい人も出てくると思います。よろしくお願
いします。

中村会長

1月には今までのことが集約されて資料が提示されると思います。事前に資料の配付はなされるということですので、目を通してきていただきたいと思います。それでは閉会したいと思います。

堀内委員

<閉会后>

25ページ:「手つかずの自然」の表現を検討してほしい。雑草が荒れているイメージがあります。もっと良いイメージを持てるような表現にしてほしい。

(16:10 終了)